

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

白梅学園大学
白梅学園大学大学院

令和5年5月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	
	基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	
	基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫	
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	
	基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成	
	基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	
	基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	
	基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携	
III	総合評価	
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	
V	現況基礎データ一覧	

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

【大学の部】

- (1) 大学名：白梅学園大学
- (2) 学部名：子ども学部子ども学科、発達臨床学科
- (3) 所在地：東京都小平市小川町 1-830
- (4) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 681 名／学部全体 954 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）17 名／学部全体 39 名

【大学院の部】

- (1) 大学名：白梅学園大学大学院
- (2) 学部名：子ども学研究科子ども学専攻
- (3) 所在地：東京都小平市小川町 1-830
- (4) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 4 名／研究科全体 30 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）8 名／研究科全体 17 名

2 特色

【大学】

本学は1942年発足の東京家庭学園を起源に持ち、1955年には白梅学園保育科を設立した。同校は保育養成の学校であると同時に、幼稚園教諭養成所としての許認可を得、幼稚園教諭2級免許状の養成課程でもあった。さらに1957年に開学した白梅学園短期大学において幼児教育に特化した教員養成を行っていく中で、建学の精神である「ヒューマニズム」を土台に保育、教育、心理、福祉を横断的に学び、子どもや、子どもを取り巻く社会

に対する理解を深化させ、『子ども学』として実践的に学ぶ場として 2005 年に白梅学園大学を開学した。

当初は子ども学部子ども学科にて幼稚園教諭一種、小学校教諭一種の養成を行っていたが、2009 年に子ども学部発達臨床学科を開設した。同学科は短期大学心理学科を前身とし、多彩な心理学の知識を基盤として発達や障害への理解を深め、子どもたちのよき支援者を養成することを目的としている。発達臨床学科では幼稚園教諭一種、特別支援学校教諭一種の課程認定を受けている。

また本学は白梅学園大学附属白梅幼稚園を併設しており、学問と実践の場として交流、研究を行っている。

本学の課程認定は以下のとおりである。

免許状の種類	課程のある学科
幼稚園教諭一種免許状	子ども学部子ども学科 子ども学部発達臨床学科
小学校教諭一種免許状	子ども学部子ども学科
特別支援学校教諭一種免許状 (知・肢・病)	子ども学部発達臨床学科

教員養成における特色としては、

- ① 「履修オリエンテーション」「実習オリエンテーション」「小学校・特別支援学校教職課程オリエンテーション」からなる教員・事務が両輪となったきめ細やかな履修指導、教育実習指導
- ② 「実習ガイドブック」「小学校教育実習の手引き」「小学校教諭をめざす人のためのガイドブック」「しらうめの実習」等の手引きを使用した、教育実習にあたっての心得や実習における具体的な取り組み方の指導
- ③ 学科教員全員による実習巡回指導（幼稚園）
- ④ 「web 履修カルテ」を用いた、各年度の教職課程科目の振り返りおよび「教職実践

演習」への活用

- ⑤ 「実習指導センター」(幼稚園)「教職教育・研究センター」(小学校・特別支援学校)を中心とした課程履修者の受け止め、個別指導
- ⑥ キャリアサポート課による小学校ボランティアのあっせん
- ⑦ 「教職教育・研究センター」および校長経験のある教員による教員採用試験対策
- ⑧ 学修行動調査および授業アンケート、卒業時アンケート等、各種学生対象のアンケートからの教職関係授業へのフィードバック、達成度確認の実施
- ⑨ 教職関係の公開講座実施による卒業生への情報提供、交流
- ⑩ 臨時任用募集の情報提供など、卒業生の就職支援
- ⑪ 大学 HP における情報公開、「実習通信」による教育実習指導・体験の総括と実習受け入れ先への情報発信がある。

入学前、在学中、卒業前、卒業後と教職課程におけるすべてのステージに大学が積極的に関わり、教職課程の担当教員、学科教員、関係事務部門が連携しながら、教職を目指す学生の学修に、“エアポケット”が生じることのないような組織づくりをしている。

【大学院】

白梅学園大学大学院（修士課程）は 2008 年に開学した。学部卒業生だけでなく、現役の保育士、幼稚園教諭、小学校教諭や、高等教育機関で教鞭を執る教育者など、現在教育の場に身を置いている人も含め、子どもの支援者やそれを目指す人が、より多面的に『子ども学』を探究する機会を提供し、「実践的研究者」と「研究的実践者」と成ることを目的としている。大学院においては論文指導に加えて、「保育・教育の実践とマネジメント研究領域」「臨床的・科学的発達研究領域」「子どもの福祉に関する研究領域」の 3 分野からカリキュラムを構成し、幅広い学問領域から『子ども学』にアプローチすることを可能としている。

認定課程は幼稚園教諭専修免許と小学校教諭専修免許である。

免許状の種類	課程のある学科
幼稚園教諭専修免許状	子ども学研究科子ども学専攻
小学校教諭専修免許状	

教員養成の特色としては、専門性を活かしたカリキュラム構成や履修機会、学修の制度を設け、教職の希望者が大学院修了と同時に免許を取得することができることが挙げられる。

先述のとおり、院生の多くは現役の保育者、教育者であるため、科目内容の充実に合わせて、受講曜日や時間といった選択の幅を広くとることは重要である。幼稚園課程については子ども学研究科目 24 科目のうち 17 科目、小学校課程は 14 科目とし、教職課程科目を多数配置し、履修の機会を多く設けている。

また、「教育職員免許取得プログラム」制度として、幼稚園、小学校教諭の免許状を有しない院生に対しても同免許の取得を可能とする機会を用意している。これは、「学士の学位を有する者で幼稚園および小学校の教育職員免許状を有しない者が、長期履修学生制度に基づき 3 年（または 4 年）で本大学院の教育課程と併せて科目等履修生として白梅学園大学子ども学部の教職課程を履修すること」で、それぞれの専修免許状の取得を可能とするものである。このプログラムを使用して、他校種（中学、高校など）の免許を所持している院生が小学校専修免許状を取得し、実際に教壇に立つなど、院生の進路選択にも寄与している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明・長所・特色〕

【大学】

本学は、人間を愛し、人間の価値を最高度を実現しようとする“ヒューマニズムの精神”を建学の理念としている。この理念に基づき、日本国憲法および教育基本法の実現に努め、社会の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的としている。それを踏まえて、『子ども学部の卒業・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー/DP）』として、以下の観点にそった所定の単位を修めた学生に、学位を授与することとしている。

（1）ヒューマニズムの精神を体得し、子ども学に関する学問的探究を進めるために必要な基礎学力および基礎技能を習得している。

（2）学科ごとの専門領域に関する体系的学修と、学科を超えた横断的学修による学際的視点を通して、子どもと子どもを取り巻く社会の課題を解決するための力をつけている。さらに学科ごとの方針を次のように定めている。

（子ども学科）

- ・子どもの成長や発達について、確かな知識を習得している。
- ・子どもを取り巻く環境、さまざまな問題や文化状況に対して、子ども学の知見に基づく己の考えを持ち、それを表現し、行動することができる。
- ・子どもの健やかな成長を支え、子どもに関わる様々な問題を解決するための技術を身につけ、適切な行動をもって社会に還元することができる。

（発達臨床学科）

- ・生涯にわたる人間の心理発達について、確かな知識を習得している。
- ・生涯にわたる人間の心理発達をめぐる課題に対し、発達臨床心理学の知見に基づく己の考えを持ち、それを表現し、行動することができる。

- ・発達段階において困難を抱えた人々を理解し、心理学的な知見を踏まえた支援ができる能力を身につけ、適切な行動をもって社会に還元することができる。

これらを通して、本学教員養成課程の目的である「人間研究の幅広い視野に立ち、乳幼児から学童期も含めた子どもの成長や発達について理解を深め、子どもを取り巻く環境、さまざまな問題や文化状況を理解し、保護者や地域の人々とともに、子どもの健やかな生活・発達を援助できる能力・技術を身につけること」(子ども学科)、「心理学の知見を基礎として、乳幼児期から成人期に至る長い期間の発達について理解を深め、そこで生じる諸問題への心理的教育的なアプローチの仕方を学び、心理的援助を必要とする人々や発達において困難を抱えた人々を理解し、支援できる能力を身につけること」(発達臨床学科)の達成を目指している。この目標・目的は大学ホームページにて広く公開し、入試ガイドブック、履修案内、教育実習ガイドブックなど、教職員および学生個々が手に取れる媒体で共有・周知をしている。

本学の教職課程における特色は、建学の理念である「ヒューマンイズムの精神」を土台にし、「子どもと、子どもに関わる人に対する深い理解」「それらのひとびとを支援するための、知見に裏付けられた確かな技術、能力」を併せ持つ教員の養成を目指しているところにある。子ども学科は人間研究の幅広い視点から、発達臨床学科は心理的教育的な観点から、目標とすべき教員像の実現を図っている。

この『教員養成の目標』はカリキュラム・ポリシーを踏まえて構成されている各教職課程科目および、実習科目、授業科目外の体験・指導の積み重ねで到達するものである。大学は学生に対して、①各種オリエンテーションを通して教職課程履修の心構えや具体的な履修方法を示す、②履修カルテを用いた年度ごとの教職関係科目の振り返りと、教職実践演習への活用、③「実習指導センター」「教職教育・研究センター」による実習指導、④「キャリアサポート課」による教育ボランティア体験の紹介・支援、⑤「教職教育・研究センター」「キャリアサポート課」による教員採用試験の指導 ⑥学修行動調査や卒業時アンケートによる自身の評価・達成感の確認といった機会を通じ、目指す教員像の落とし込みを

促すと同時に、「履修案内」「履修カルテ」「実習ガイドブック」等の媒体を活用することで、関係部門、教職員が各々目的を共有し、一貫した指導にあたるよう注力している。

また、目指す教師像の実現に向けて、教職課程教育の計画的な実施のために、各部門の教職員が連携を取りながら、以下の事柄を実施している。

- ・教育職員免許法、CP、目指すべき教員像の実現に沿った科目の検討と配置
- ・シラバスによる授業内容と到達目標の明示、またシラバスに記載された授業内容が教職課程科目として求められる内容を満たしているかの確認
- ・履修案内を使用した在学中の教育職員免許取得フローの提示
- ・履修オリエンテーション、教育実習オリエンテーションを実施し、履修計画、実習計画の立案についての指導、支援を行う
- ・教職課程委員会、保育部会、実習指導センター会議等の委員会を定期的を開催し、個々の学生の動向を把握する。情報の共有や適切な支援に努め、教育実習派遣の可否についての検討、指導を行う
- ・進路希望調査票を使用した学生の進路希望の把握と、それをもとにしたボランティア、イベント等の情報提供を行い、現場体験、進路選択検討の機会を提供する
- ・教職教育・研究センター、およびキャリアサポート課における教員採用試験、特別区立幼稚園採用試験対策講座の実施

また、教職教育・研究センターより「小学校教諭を目指す人のためのガイドブック」を作成と配布を行い、教職課程を通して育もうとする項目や、学修到達目標を明示することにより、学修成果（ラーニング・アウトカム）学生に対して可視化を図っている。

【大学院】

本学大学院子ども学研究科は建学の理念である「ヒューマニズムの精神」をもとに、「子ども学」を多面的なアプローチで追究し、より専門的に探求することで、実践を客観的に把握できる実践者と、実践を理論的に理解した研究者を育成することを目指している。さらに、理論と実践を高次元で統合できる力の養成をはかり、学際的視点や公益の精神を学び、研究者・実践者としての幅をさらに広げ、高度な専門性を備えた子ども学の研究的実

践者、実践的研究者を養成する。

この目標を達成するために、「ディプロマ・ポリシー (DP)」を以下のように定めている。

- ・子ども学の実践的、研究的成果をあげて、学問世界に、地域社会に、子どもに関わる現場にと建設的に貢献していく萌芽と展望を拓く。
- ・直面している複雑化した子ども問題に率先して対応し得る協働的な実践研究を行い、地域のニーズに即応した園運営・次世代育成・子育て支援に関わる総合的なマネジメントあるいは、スーパービジョンの考究に関わり、それらを研究的、実践的に担い得る、より高度な専門性を身に付ける。
- ・子ども学の研究への寄与と子ども学の実践の具現化を目指す研究を仕上げる。

これら DP に基づき、以下のミッションを達成しうる教員を養成する。

- ・保育・教育の場に携わり、その充実を目指し、たゆまぬ研究を続けること
- ・子どもの成長、発達を支え、その文化的環境づくりに取り組むこと
- ・研究で培った高度な知識、専門性を教育の場から社会に還元し、「子ども学」の実践を図るとともに、子どもの未来、ひいては人間社会の発展に貢献していくこと

この目標は「大学院子ども学研究科（修士課程）ポリシー」を踏まえて設定され、いわゆる「3つのポリシー」と合わせて大学ホームページ、大学院履修案内で示されており、教職員および院生に周知・共有されている。

本学の大学院教職課程における特色は、「研究的実践者」と「実践的研究者」を兼ね備えた教員養成を目指しているところにある。この達成像は「DP（ディプロマ・ポリシー）」「AP（アドミッション・ポリシー）」「CP（カリキュラム・ポリシー）」として内外に示され、周知・共有されている。また、現在、教育現場で働いている人材に対し専修免許取得をとおして知識の修得や技能の向上を図る場を設けるだけでなく、取得免許状を有しない人、他校種の免許状のみ所持している人に対しても免許取得の門戸を開いている。これは学部の学修（科目履修）と大学院の研究とを両立させながら、幼稚園・小学校の専修免許状取得を可能とする「教員免許状取得プログラム」制度である。保育・教育分野の専攻に

限らない、多様な学修歴をもつ人が『子ども学』に取り組むことで、学問全体の進展に加え、複雑化する子ども問題にも柔軟に対応できる教員の養成を目指している。

《出典資料：白梅学園大学 HP 教職課程における情報の公表『教員養成の目標』、《出典資料：2021年度「履修案内」》

《出典資料：白梅学園大学 HP、2021年度「大学院履修案内」》

基準項目1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明、長所・特色〕

【大学】

白梅学園大学における小学校・特別支援学校教職課程、幼稚園教職課程の事務は、実習指導センター/教職教育・研究センター事務課において、「白梅学園大学子ども学部 教職課程履修規程」、「白梅学園大学子ども学部 教職課程履修規程『教育実習』（小学校）細則」、「白梅学園大学子ども学部 教職課程履修規程『特別支援学校教育実習』細則」、「白梅学園大学子ども学部実習規程」に基づいて行っており、小学校教育実習・特別支援学校教育実習、介護等体験、幼稚園実習に関する手続きを始めとした諸業務を行っている。

小学校・特別支援学校実習は教職教育・研究センター、幼稚園の実習は実習指導センターをそれぞれ設置しており、両センターには特任教授、実習助教、実習指導員等各実習に精通した教職員を配置し、授業や学科に関わらず実習に関する包括的に学生のサポートを実施できるようにしている。

教職教育・研究センターでは、「小学校教育実習の手引き」を発行し、学生に配布することにより、実習に対する心構えや学習の方法、学習指導案の作成方法、到達目標などといった小学校教育実習の事項を開示している。またセンター室内には各教科の教科用図書・副読本・指導書・学習指導案集、教員採用試験対策テキスト・過去問、自習スペース、模擬授業設備（黒板、電子黒板、各種文房具等）などを備えている。

「教職基礎学力講座」・「教採受験対策講座：(A) 教職教養・(B) 小学校全科」・「教職試験

直前講座：小論文」等を別途開講し、小学校・特別支援学校教員免許取得希望者の学力向上を図っている。また教職課程担当教員にて構成された教職課程委員会を設置して、教員間の情報共有を行っている。

実習指導センターでは、実習対象学年全員に対して「実習ガイドブック」を発行している。この実習ガイドブックには建学の精神である「ヒューマニズムの精神」を元にした実習に対する心構えや必要な手続き、実習指導の進め方をまとめている。また、センター内には補講ブース、各実習先の資料（幼稚園の概要、パンフレット、実習報告書など）閲覧スペースなどを設置している。

【大学院】

幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状の取得に際しては入学時に行われる研究科オリエンテーションにて担当教員が概要を示し、「大学院履修案内」に「教員免許状取得について」「教員免許の申請について」として詳細な説明を行っている。「教員免許状取得プログラム」については、昼間部の通学が必要になることもあり、綿密な履修計画支援を行っている。また免許取得ルートの確認等、教務課において随時個別相談に応じている。また、目指す教師像の実現に向けて、教職課程教育の計画的な実施のために、各部門の教職員が連携を取りながら、以下の事柄を実施している。

- ・教育職員免許法、CP、目指すべき教員像の実現に沿った科目の検討と配置
- ・シラバスによる授業内容と到達目標の明示、またシラバスに記載された授業内容が教職課程科目として求められる内容を満たしているかの確認
- ・履修案内を使用した在学中の教育職員免許取得フローの提示
- ・学士の学位を有する本大学院修士課程の入学者で幼稚園及び小学校の教育職員免許状を有しない学生や社会人に対し、教職に関する高度な専門性を持つことを目指す「教育職員免許プログラム」の導入

《出典資料：白梅学園大学子ども学部 履修案内 P147》

《出典資料：学内教員用 実習指導の手引き—幼稚園・保育所・福祉施設—》

《出典資料：小学校教育実習の手引き》

《出典資料：実習ガイドブック》

《出典資料：白梅学園大学 HP、2022 年度「大学院履修案内」》

《出典資料：白梅学園大学HP 教職教育・研究センター》

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明、長所・特色〕

【大学】

学生の受け入れに関しては、各学科のアドミッション・ポリシーを定め、選抜方法については委員会、教授会で協議・確認し、組織的に複数の段階を経て公正かつ適正に運用している。学部定員を維持するよう最大限の努力を行っている。学生募集活動などを円滑かつ効率的に処理するため、「入学センター」を設置して実施している。高校生・保護者・関係者向けにはオープンキャンパスを実施し、入試内容や本学の情報についてご理解を頂けるようにしている。また、東京都内の高校を訪問し、本学の説明や受験生の希望のヒアリング等を実施している。また、教職課程委員会、保育部会、センター運営委員会等の各種資格に関する委員会を定期的に開催し、個々の学生の動向を把握する。情報の共有や適切な支援に努め、教育実習についての検討、指導を行っている。

【大学院】

大学院子ども学研究科の受験を検討している方に、オープンキャンパスや個別相談会を実施している。

<根拠となる資料・データ等>

《出典資料：2023 年度自己点検》

《出典資料：白梅学園大学・白梅学園短期大学受験生サイト》

《出典資料：白梅学園大学大学院子ども学研究科の受験をお考えの方へ》

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明、長所・特色〕

【大学】

在学生のキャリア支援は、「キャリアサポート課」が担当している。課員と教員で連携して実施している。キャリアサポート課には国家資格を所持しているキャリアコンサルタントや専門スタッフによる「キャリアガイダンス」、「個別相談」、「インターンシップ・ボランティア等の斡旋」などを実施している。キャリアガイダンス「自己理解」を実施することで、学生の意欲や適性についての把握を行っている。外部講師の講演・卒業生講演ガイダンス・キャリアガイダンス「仕事理解」等を通じて在学生には各種職種の情報を提供し、また卒業生講演ガイダンスを実施して、キャリア支援の充実化も図っている。ボランティア・イベント等の情報提供は、進路希望調査票を使用し学生の進路希望を把握して行っている。進路希望を元にして現場体験、進路選択検討の機会を提供している。

【大学院】

大学院生については、既に各所にて勤務をされている方が多数であるため、大学院での学びを職務に活かすことができるよう、教員の指導が行われている。

<根拠となる資料・データ等>

《出典資料：キャリアガイドブック》

《出典資料：2023年度自己点検》

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明、長所・特色〕

本学の子ども学科では保育士、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、社会福祉士受験資格の取得が可能であり、発達臨床学科では保育士、幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状の取得が可能となっている。多岐にわたる資格があるため、ホームページにてカリキュラムマップを公開し、学習内容の順次性と科目間の関連性を示している。また、学生の授業科目の履修登録単位数は各年次において50単位を上限とし、建学の精神を具現する教育を行うように努めている。

教職課程に関連する科目については、履修案内に法令と本学科目の対照表を掲載して履修要件を、またシラバス内にて各教職課程関連科目の学習内容・目標・評価方法を開示し学生に周知させている。

年度の後期開始時に、学科ごとにそれぞれの資格希望者向けのオリエンテーションを実施し、担当の教員より資格取得ガイダンスを行い、学生に情報共有している。

<根拠となる資料・データ等>

《出典資料：カリキュラムマップ》

《出典資料：白梅学園大学ホームページ 授業シラバス》

《出典資料：白梅学園大学子ども学部 授業科目の履修登録単位数の上限に関する規定》

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明、長所・特色〕

本学子ども学科では、現代子ども学特別演習の授業を1年次に設置している。各種の実習の前に保育・幼稚園教育・小学校教育の現場に赴き体験学習する。2年時からは子ども学科・発達臨床学科ともに教育実習（幼稚園）を履修することができ、幼稚園での実習に赴く（子ども学科にて教員免許取得希望者は必須、発達臨床学科は選択制となる）。就学前

教育機関である幼稚園での実習を通して学校教育の基礎を実践的に学んでいる。

3年次に特別支援学校で2日間、社会福祉施設5日間の介護等体験を実施し、4年次に小学校・特別支援学校での教育実習を行う。以上のカリキュラムを以って学生が実践的な指導力を学べるようにしている。

また、地域連携活動として「白梅子育て広場」という活動を行っている。地域の子どもたち、保護者や高齢者、障害者など、地域の人々と学生がつながる交流活動を目的としたもので、活動内容は多岐にわたる。

学生自らが主体的に教員や地域のNPOと協力し、企画・運営に携わっているのが大きな特徴であり、学科を問わず多くの学生が積極的に参加しているため、新たな出会いや発見につながっている。

<根拠となる資料・データ等>

《出典資料：小学校教諭を目指す人のためのガイドブック》

《出典資料：白梅学園大学HP「白梅子育て広場」》

Ⅲ. 総合評価

本学では、自分の幸せだけでなく、他者の幸せを願うという“ヒューマニズムの精神”という建学の理念に基づき今日まで教員養成を行ってきた。本学の元々の強みであった保育・社会福祉の学びも活かすというところに大きな強みがあると感じられる。2017年度からは前述の「教職教育・研究センター」が発足し、小学校・特別支援学校教員養成課程は教職教育・研究センター、幼稚園教員養成課程は「実習指導センター」がそれぞれ担当することにより、学生はそれぞれの分野にてより深い学びを得られるようになった。

また、基準項目2-2・3-2に記載の通り、ボランティアや体験型の授業カリキュラム、学生生活動を通じて学生は広い視野で教職課程の学びを得ることができる。

学びの地盤がある一方で、各センターや関係部署間の連携をさらに一層強化し、よりよい学びを学生に提供できるように努力を重ねていく。

白梅学園大学

学長 高田 文子

IV 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 白梅学園					
大学・学部名 白梅学園大学子ども学部					
学科・コース名（必要な場合） 子ども学科、発達臨床学科、家族・地域支援学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					233名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					227名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					199名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					40名
④のうち、正規採用者数					29名
④のうち、臨時的任用者数					11名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	22名	15名	2名	0名	
相談員・支援員など専門職員数 0名					